



TEAM FUKUOKA NEWS

「チーム福岡」福岡県選手団サポートニュースレター

Today's News Flash

スケート競技会・アイスホッケー競技会 皇后杯8位!

～ ぎふ清流国体(スキー競技)へつながる好スタートを切る～

2月1日、ショートトラックスピードスケート各種別 500mと成年男女リレーが行われ、「ゆめリンク愛知国体」が終了した。本県選手団は、フィギュアスケートで2種目が入賞、ショートトラックで6種目が入賞、皇后杯8位入賞を果たし、目標である本国体男女総合成績8位以内入賞に向けて好スタートを切った。

Topics

スケート競技の原動力 辰巳選手・南里選手で26点獲得

辰巳・南里選手が 500mに出場。1000mで優勝した、ユースオリンピック銅メダリストの菊池選手を追う福岡の2選手は、中盤に5m程引き離され勝負がついたかと思われた。しかし、最後まであきらめず懸命に追いすがると辰巳・南里選手は、最後の1周で追いつき会場を沸かせた。最終コーナー出口から直線で、内側から前に出ようとする辰巳選手を菊池選手が懸命のブロックでかわし、惜しくも辰巳選手が2位、南里選手が3位でフィニッシュした。辰巳・南里選手が、また一つジュニアの頂点に近づいたことを裏付ける試合であった。

👉【大井監督のコメント】

現在の福岡県の戦力を考えると、今回の成績は順当と言える。しかし、中には本来の力を発揮できれば、さらに上位進出ができた選手や、チャンスを逃してしまった選手もいた。ジュニアの女子については、継続的な選手の育成ができていますので、これを少年男子にも拡大し、成年種別に繋げることが今後の課題。選手・指導者が一丸となって、今後も強化に取り組みたい。

👉【上田憲幸団長の総評】

昨年度と比較して獲得点は若干低くなったものの、引退を含めた選手の状況を考えると良い結果であると思う。新たな選手への移行がスムーズに行われており、今後さらなる成長が楽しみである。ぜひ、今後も継続的に選手を育成・強化し、福岡で活動する選手が増えていくような環境づくりを行う必要がある。こうした成果は、選手はもとより、指導スタッフの努力の賜物であり、心から感謝したい。



トップの菊池選手を猛然と追走する辰巳選手と南里選手



成年女子 500m 6位入賞の古賀選手

Another Story

トップ選手とのコミュニケーション ～フィギュアスケート～

本大会には、地元愛知県代表として、日本のトップ選手である小塚崇彦選手と鈴木明子選手が出場し、例年になく多くの観客が来場していた。観客は、トップ選手が練習で見せるスピード・技術・表現力に歓声をあげ、心なしか他県の選手は脇役に回り、コースを譲ったり、気負ったりするなど思ったような練習ができていないようであった。このような中、本県選手が本来の力を十分に発揮できた背景には、トップ選手とのコミュニケーションがあった。前日の食事の際、本県の指導スタッフが小塚選手を見つけ、ともに食事を取っていたことから、互いの存在を知り合い、会場でも明るく会話をを行うなど、リラックスした雰囲気が出ていた。今回の成果は、指導スタッフの力でもあり、中央競技団体とのつながりや選手のコミュニケーション能力の重要性を示している。

Result

ショートトラックスピードスケート

- 成年男子 500m 山田 誠 予選3位、竹内 悠 予選3位
- 成年女子 500m 古賀あや 決勝6位、駒谷紗瑛 準々決勝3位
- 3000m リレー (古賀・駒谷・山田・松尾) 決勝4位
- 少年男子 500m 伊藤聡貴 準々決勝3位、山崎健人 準々決勝3位
- 少年女子 500m 辰巳香子 決勝2位、南里雅綺 決勝3位



小塚選手(左)と本県選手(中央2人)